

ONE FOR ALL ALL FOR ONE

生活指導通信 第3号 令和5年5月8日(月)

いじめについて考える

入学・進級して約1か月がたちました。4月当初にあった緊張感も徐々に薄れ、学校生活にも慣れてきたころかと思います。友達関係にも慣れあい生まれ始めてきているのではないのでしょうか。休み時間、友達にちょっかいをかけていたり、追いかけていっことをしていたり、「嫌がっていない?」と思うような肩の組み方をしていたりといった様子が見られるようになってきました。そんな時に増えてくるのが「いじめ」です。友達との関わり方について少し振り返り、「いじめ」について考えてみましょう。

いじめは人権侵害です。「いじめられる側にも原因がある」という考え方は間違いであり、遊びや軽い冗談のつもりでも、いじめられる側の苦しみや痛みは深刻です。はやし立てたり、見て見ぬふりをするのもいけません。「いじめは絶対に許さない」という強い態度をクラス・学年・学校で示すことが大切です。

☆いじめをなくすためにできること

以下のイラストを見てみましょう。いじめは「いじめられる子(被害者)」と「いじている子(加害者)」だけの問題だという風に思われるかもしれませんが、同じ集団の中ではそれを「はやし立てる子(観衆)」や「見ていただけの子(観衆)」もいることがわかります。また、「止める子(仲裁者)」や「何とかしようとする子(相談者)」もいます。もし、自分の身の回りでいじめがあれば、積極的に「止める子(仲裁者)」、もし難しければ「何とかしようとする子(相談者)」となってください。



引用) 兵庫県教育委員会 HP

☆いじめのきっかけと発展

いじめのきっかけは大きく6種類に分けられます。自分自身の友達との関わり方を振り返って、きっかけとなるようなことがないかを確認しましょう。

①【遊びからの発展】

遊びという認識の上でのからかいや身体接触、いじり等が度を越えてしまう。

例) あだ名で呼ぶ。冗談のつもりで背中を叩く。面白半分で授業中におおるような発言をする。

②【誤解からの発展】

些細な誤解によって腹を立て、いじめによってその思いを表現する。

例) 呼んだのに無視された、悪口を言われた気がした、にらまれた気がする等で腹を立て、嫌がらせをする。

③【迷惑感】

ある生徒の言動、コミュニケーション、運動能力の差等によって迷惑を感じた生徒がいじめによってその思いを表現する。

例) 授業態度について注意をしたが、言うことを聞いてくれないため、その生徒の悪口を言う。

運動が苦手な子と同じチームだったので負けてしまい、その生徒を責める。

④【生徒の個性】

身体的な特徴や言動の内容をいじる。

例) 体が大きい(小さい)、声が高い(低い)等、その生徒の身体的な特徴や授業中の失敗を取り上げて、笑いものにする。

⑤【ケンカからの発展】

ケンカをお互いで解決することができず、いじめという形で継続していく。

例) 相手が悪口を言ってきたから言い返しただけ。過去に嫌なことをされたから嫌がらせをした。

⑥【嫉妬や妬みからの発展】

同性の友人または恋愛に関わる異性の取り合いや、大人びていたりする生徒、自分と同じものを持っている生徒に対する妬みを表現する。

例) 真面目な生徒や勉強が得意な生徒に対して、きっと先生に気に入られようとしているんだという気持ちから嫌がらせをする。

合言葉は One For All All For One!!

いじめをしない・させない

大蔵中生一人ひとりの意識で学校を安全安心の場所に